

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

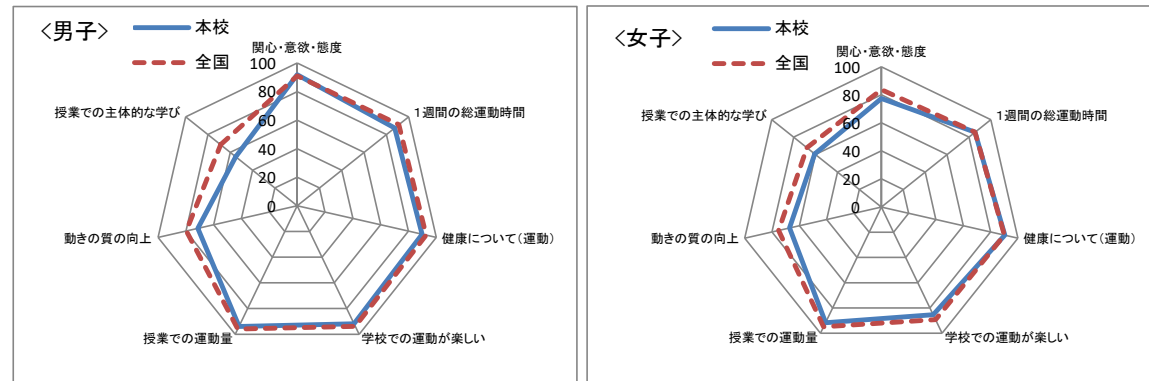
2. 本市における調査内容

(1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

「運動やスポーツが好き」「体育の授業は楽しい」などの項目においては、男女ともに全国平均とほぼ同じ数値を示している。
「学校での運動が楽しい」「授業での運動量」については全国平均とほぼ同じ数値を示している。このことから、児童が授業において楽しみながら運動し、十分な運動量を確保していることがわかる。
しかし、一方で「授業での主体的な学び」「動きの質の向上」においては、全国平均よりも低い数値となっている。このことから、授業の質の向上が求められる。「授業での主体的な学び」を実現するためには、1単位時間の授業のめあてだけでなく、個別のめあてを設定し自分の目標に向かって活動する必要がある。また、「動きの質の向上」を実現するためには、児童が自身のできるようになったことや記録の伸びなどを自覚することが重要である。そのために、ICT機器等を活用して自身の動きや記録の伸び可視化して児童が自覚できるようにする。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・体育科の授業では、体力向上プログラムや体育授業パワーアッププランを有効に活用し、体を動かす楽しさや喜びが実感できるようにする。また、一人一人に目標をもたせるとともに、ふり回り活動で児童のよさを価値づけることで達成感が得られるような授業展開の工夫に努める。
・体育科の授業では、十分な運動量を確保するとともに、友達同士やチーム内で話し合い高め合う活動のさらなる充実を図る。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・朝の時間には保健委員会による全校キッズダンスに取り組むとともに、昼休みには体育委員会による体力テストコーナー「体力パワーアップタイム」を継続して取り組むことで運動習慣の定着を図る。また、来年度は2学期に3週間ほどの持久走週間を設け全学年で持久走に取り組むとともに、3学期には「なわとびタイム」や「なわとび集会」などに取り組み体力の向上を図る。